

コンロ

- 油料理のときは火のそばを離れない。
- 周囲に燃えやすいものを置かない。



ストーブ

- ストーブで洗濯物を乾かさない。
- 周囲に燃えやすいものを置かない。
- 給油は火が完全に消えてから。



放火

- 家の周囲に燃えやすいものを置かない。
- 車庫や物置などに鍵をかける。



配線

- たこ足配線をしない。
- 傷んだコードは修理・交換する。
- コンセントのプラグに付いた綿ぼこりなどを取り除く。

たばこ

- 寝たばこや投げ捨てをしない。
- 火がついたままその場を離れない。

初期消火の三原則

① 通報

- 「火事だ！」と大声で叫び隣近所に知らせる。
- 火災報知機や非常ベルがあれば鳴らす。
- 小さな火でも必ず119番に通報する。



② 初期消火

- 火が横へ広がっているうちは消火可能。
- 消火器や水、座布団や毛布など、身近なものを活用して消火する。
- 一人で消そうとせず、援助を求める。



③ 避難

- 火が天井に燃え移ったら、消火をあきらめてすぐに避難を。
- 避難するときは、燃えている部屋のドアや窓ガラスを閉めて、空気を遮断する。



住宅用火災警報器を住宅に設置することが義務づけられている。

住宅用火災警報器のタイプ

■ 煙感知式

煙を感知する。火災では熱よりも煙の方が早く広がる場合が多いため、居室や階段への設置に適している。

■ 熱感知式

熱を感知する。台所など、火災以外の煙が生じやすい場所への設置に適している。

設置すべき場所

居間、リビング、子ども部屋、寝室などの普段使っている居室、階段、台所の天井または壁に設置が必要。  
(浴室、トイレ、洗面所、納戸などは含まれない。)

〈住宅用火災警報器(住警器)の点検はお済ですか?〉

- 電池式の場合は、設置から10年程度で電池の使用期限を迎えます。
- 住警器の種類によっては、電池交換または本体交換を知らせる警報アラームが鳴るものがあります。

もしものために点検をお願いします。